



先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/03/03

## 「ウクライナ情勢」が波乱材料に

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	日米金融政策へ期待の影響は限定的 予想レンジ: 98.000 ~ 103.000 円	2 - 3
<a href="#">カナダ/円</a>	➡	不透明要素多し 予想レンジ: 88.000 ~ 94.000 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



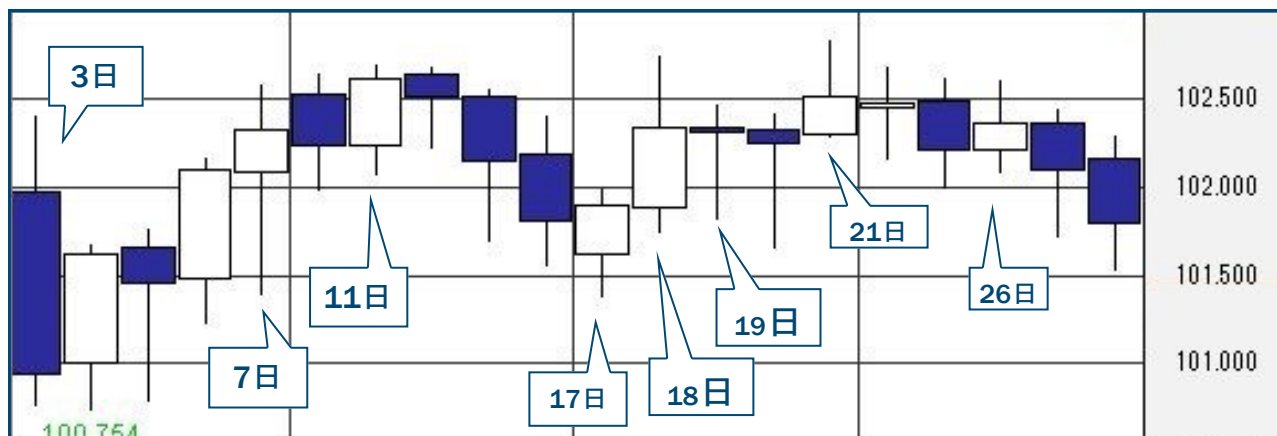
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD / JPY

## ドル/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	101.973円	102.825円	100.754円	101.806円



3日	米1月ISM製造業景況指数は51.3と予想(56.0)を大きく下回り、前月分も下方修正(57.0→56.5)された。予想外に弱い結果を受け、ドル/円はストップを巻き込みながら急落した。
7日	米1月雇用統計にて、非農業部門雇用者数が予想(18.0万人増)を大きく下回る11.3万人増と伝えられると、ドル/円は101.401円まで急落。しかし、失業率が2008年10月以来の低水準となる6.6%(予想:6.7%)となった上、労働参加率は63.0%と前月(62.8%)から上昇した事もあり、米長期金利が急速に低下幅を縮小すると102.576円まで買い戻された。
11日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の議会証言用原稿が報じられ、「米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和の縮小を段階的に継続する可能性が高い」「現在のFOMCの金融政策を強く支持」などとあったことを受けてドル買いが強まると、ドル/円は102.60円台まで急騰。しかし、同時に「量的緩和の終了後も強い緩和政策が適切である」「失業率が6.5%を大幅に下回っても低金利は維持する公算」とあったことから、すぐに上げ幅を縮小するなど、値動きの荒い展開となった。ただ、この証言内容を受けてNYダウ平均が上昇すると、ドル買い優勢となった。
17日	本邦10-12月期国内総生産(GDP)・一次速報が前期比年率+1.0%と予想(+2.8%)を大きく下回った事を受け、日経平均株価が下落すると、ドル/円は一時101.384円まで下落。ただ、同株価がプラスサイドに転じたことや、同GDPを受けて日銀の追加金融緩和の思惑から円売り優勢となり、反発した。
18日	日銀が金融政策決定会合終了後に、貸出支援基金の1年延長と融資枠を3.5兆円から7.0兆円に拡充すると発表したことを受けて日経平均が大幅に上昇すると、ドル/円も102.741円まで値を伸ばした。ただ、黒田日銀総裁から目新しいコメントがなかったことなどを受けて、その後は上げ幅を縮小した。
19日	米1月住宅着工件数が88.0万件(市場予想:95.0万件)、米1月建設許可件数は93.7万件(同:97.5万件)と、双方市場予想を下回ると、101.831円まで下落。しかしその後は反発。FOMC議事要旨では、「失業率の低下に伴って、フォワード・ガイダンスを変更へ」「数人のメンバーは会合ごとに100億ドルずつ量的緩和規模を縮小することを支持」「最初の利上げに関するフォワード・ガイダンスを間もなく変更することが適切と判断」「数名のメンバーは早期の利上げの可能性を指摘」などとあった。ややタカ派色が強めの内容を受けてドル/円は上値を伸ばした。
21日	ウクライナ情勢の沈静化期待から米長期金利が上昇すると、ドル/円は102.825円まで上昇した。
26日	「プーチン露大統領は対ウクライナ国境に位置する西部軍管区などでの軍事演習実施を命じた」と報じられ、ユーロ/円が下落。これに連れてドル/円は下落した。ただ、米1月新築住宅販売件数が46.8万件と予想(40.0万件)よりも強い結果だったことからNYダウ平均が切り返すと、ドル/円も反発した。

## USD / JPY

## 今月のポイント

2月のドル/円相場は100.754～102.825円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいとなった。ドル/円は月初に弱めの経済指標を受けて100.754円まで下落するも、米1月雇用統計の強めの結果を受けて反発した。しかし、102円台後半では上値が重い状態。米国の経済指標も大雪の影響などから冴えないものが目立ち、また、イエレンFRB議長の発言から、当面は量的緩和の縮小ペースに変化がない様子が窺えたため、ドル買いも入りにくい状態だったことが背景にある。しかし、101円台後半では下値の堅い様子も見受けられた。

3月もやはり、ドル/円の大きな材料である日米の金融政策の行方が注目される。米国についてはFOMCでの量的緩和(QE)縮小ペースが引き続き焦点で、それを計る上で各種経済指標がそれぞれ注目される。ただ、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長は、目先は基本的にQE縮小ペースは一定に保つ方針を示しており、米経済指標の結果が多少サプライズ含みになったとしても、3月のFOMCでのペース変化は期待しにくい。つまり、ドル/円の方向感に働きかける力は限られたものになると考えられる。また、日銀についても、4月の消費増税前に追加緩和を打ち出す可能性は現時点では高くない。一時的に追加緩和を期待して円安進行→金融政策決定会合で何も出ず、失速、という動きなどが出る可能性はあるが、やはりトレンドを大きく動かす要因にはなりにくそうだ。

ただ、ウクライナ関連の報道には注意したい。ロシアの軍事介入で他の先進国とロシアの対立が深まるようなら、リスク回避ムードの拡大→株安・米長期金利低下、という経路を辿ってドル/円の下押し要因になる。この件に関しては、マーケットの関心が落ち着くまで、ドル/円は下ブレしやすいと考えておいた方が良さそうだ。(石川)

(予想レンジ:98.000～103.000円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

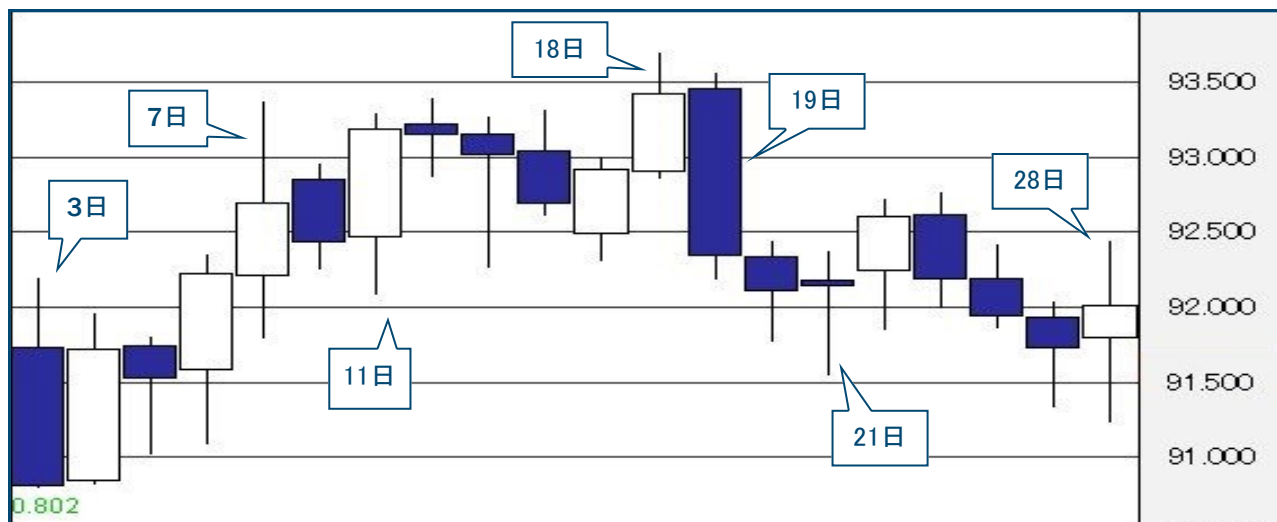
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/3(月)	2月米ISM製造業景況指数	3/17(月)	2月米鉱工業生産
3/5(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/18(火)	2月米消費者物価指数
	2月米ISM非製造業景況指数		2月米住宅着工件数
3/7(金)	1月米貿易収支	3/19(水)	2月日本通関ベース貿易収支
	2月米雇用統計		米FOMC政策金利発表
3/8(土)	2月中国貿易収支	3/20(木)	3月米フィラデルフィア連銀景況指数
3/10(月)	1月日本経常収支・貿易収支	3/24(月)	3月中国HSBC製造業PMI
	10-12月期日本GDP・二次速報	3/25(火)	3月米消費者信頼感指数
3/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)		2月米新築住宅販売件数
3/13(金)	1月日本機械受注	3/26(水)	2月米耐久財受注
	2月米小売売上高	3/27(木)	第4四半期米GDP・確報値
3/14(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (2月17・18日分)	3/28(金)	2月日本消費者物価指数
	3月米シガン大消費者信頼感指数・速報値	3/31(月)	3月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## カナダ/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	91.734円	93.701円	90.802円	92.021円



3日	前月後半からの新興国不安を引きずり、日経平均株価が295円安、独DAX指数が119ポイント安、NYダウ平均が326ドル安と各市場で株安が進行。NY市場では、米1月ISM製造業景況指数が予想を大幅に下回った事も投資家心理を圧迫した。こうしたリスク回避ムードの中、カナダ/円は終日軟調に推移し、90.802円の安値を付けた。
7日	加1月雇用統計は、雇用者ネット変化が2.94万人増と予想(2.00万人増)を上回ったほか、失業率が7.0%と予想(7.1%)以上に改善する好結果となった。米1月雇用統計の結果を受けたドル/円の急落につれて、瞬間的に92円台を割り込んだものの、米ドル/カナダドルでカナダドルが大幅に上昇した影響から反発。米雇用統計を受けて量的緩和の縮小が一時停止されるとの期待が浮上しNYダウ平均が上昇した事も支援材料となり93.371円まで上値を伸ばした。
11日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン新議長が下院議会証言で、量的緩和の段階的な縮小を推進する方針を示しつつも、同時に失業率が6.5%以下に低下しても超低金利政策を維持する方針を示した事を好感してNYダウ平均が上昇。さらに、新興国通貨がドルに対して反発するなど、リスク選好ムードが高まると、カナダ/円は93円台を回復した。
18日	日銀が「貸出増加支援のための資金供給」の規模を2倍に、「成長基盤強化を支援するための資金供給」を3.5兆円から7兆円に倍増すると発表。これを受けて日経平均が450円高となった事もあって、カナダ/円は93.701円まで上昇した。しかし日銀の措置は、実際にはマネタリーベースを増加させる事のない現行策の「延長措置」である事などから、一方的に円安が進む事にはならなかった。
19日	加12月卸売売上高が、前月比-1.4%と予想(-0.4%)以上に悪化した事をきっかけにカナダドル売りが活発化。米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録を受けてドル高・カナダドル安が進んだ上に、同議事録のタカ派的な内容を嫌気してNYダウ平均が下落した事も重石となり、91.871円まで値を下げた。
21日	加12月小売売上高が前月比-1.8%と予想(-0.4%)を大きく下回ると91.50円台まで急落したが、同時発表の加1月消費者物価指数が前年比+1.5%と予想(+1.4%)を上回ると、すぐに反発。前月の+1.2%から、カナダ中銀のインフレ目標(2.0%)に近付いたため、一部に残っていた利下げの思惑が後退すると92.30円台まで反発した。
28日	ウクライナ情勢への懸念がくすぶる中、日経平均株価の下落や中国人民元相場下落がリスク回避の動きを誘発すると91.240円まで下落。その後は、加第4四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+2.9%と予想(同+2.6%)を上回った事や、米国株の堅調推移に支えられて92円台を回復したが、ロシア軍がウクライナのクリミア半島に上陸との報道に91.70円台まで反落するなど乱高下した。

## CAD/JPY

## 今月のポイント

2月のカナダ/円相場は90.802円～93.701円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.4%の上昇(カナダドル高・円安)となった。3日に90.802円まで下落してスタートしたものの、その後は、新興国不安が和らぐ中、約7.5%の大幅下落となった1月の反動もあって18日には93.701円まで反発した。ただ、中国人民元相場下落(対ドル)やウクライナの政変に絡むロシアの軍事介入への懸念などから、月末にかけて再び軟化しており、月足チャートの形は、上下にヒゲを伸ばしたほぼ寄り同値の十字線となった。1月の大陰線の後に出現した十字線を、下げ止まりのサインと解釈するのか、続落への踊り場と解釈するのかについては、現時点では判断を下せそうにない。また、ファンダメンタルズ面からも、カナダ/円相場の方向性を予見するのは難しい。例えば、ウクライナ情勢の悪化は投資家のリスク許容度という観点から見ればカナダ/円相場にとってマイナス材料だが、ウクライナが天然ガスのパイプライン経由地(ロシアからヨーロッパへ)である事を考えれば、情勢悪化は原油などの資源価格の上昇につながりやすく、紛争地域から遠く離れた産油国であるカナダにとってはプラス材料にもなり得る。実際に、北アフリカ・中東で民主化運動が激化し、NY原油価格が100ドル台を回復した2011年初頭のカナダ/円相場は、乱高下しつつも堅調に推移していた。いずれにしても、3月のカナダ/円は、神経質な相場展開が見込まれるとともに、当面は中国やウクライナなどの外部要因に左右されやすい状況が続くだろう。(神田)

(予想レンジ: 88.000～94.000円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/3(月)	2月米ISM製造業景況指数	3/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)
3/5(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/13(木)	2月中国鉱工業生産
	加中銀政策金利発表		2月米小売売上高
	2月米ISM非製造業景況指数	3/19(水)	2月日本通関ベース貿易収支
3/7(金)	2月加雇用統計		米FOMC政策金利発表
	2月米雇用統計	3/21(金)	1月加小売売上高
3/8(土)	2月中国貿易収支		2月加消費者物価指数
3/9(日)	2月中国消費者物価指数	3/24(月)	3月中国HSBC製造業PMI
3/10(月)	1月日本経常収支・貿易収支	3/28(金)	2月日本消費者物価指数
	10-12月期日本GDP・二次速報	3/31(月)	1月加GDP
	2月加住宅着工件数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。